

NO-MAコレクション Part 5

NO-MA ヒストリー



ボーダレス・アートミュージアムNO-MAは、2004年の開館以来、さまざまな展覧会を開催すると同時に、美術館の担う大切な役割である作品の収集、保管、展示に努めてきました。現在、収蔵作家は35名にのぼり、作品点数は3万点を超えています。

本展では、NO-MAコレクション Part 5と銘打ち、NO-MAで作品をお預かりすることになった順番で、3会期に分けて作品を展示します。

絵画作品、陶芸作品、立体作品など多様な表現の作品を展示し、作品の魅力に迫ります。

それぞれの作者が表現しようとした世界を、お楽しみください。

① 本展ちらし

展覧会概要

- 会場 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（滋賀県近江八幡市永原町上16）
- 会期 第Ⅰ期 2026年5月2日(土)～7月12日(日)
 第Ⅱ期 2026年7月18日(土)～9月27日(日)
 第Ⅲ期 2026年10月3日(土)～12月6日(日)
- 開催時間 11:00～17:00
- 休館日 月曜日（祝日の場合は翌平日）
 ※展示替え期間7月13日(月)～7月17日(金)、9月28日(月)～10月2日(金)
- 観覧料 一般200円(150円) 高大生150円(100円)
 ※中学生以下無料、障害のある方と付添者1名無料 ※()内は20名以上の団体料金
- 主催 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA
 社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～
- 後援 滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会
- 協力 近江八幡観光物産協会、しみんふくし滋賀、マエダクリーニング仲屋店

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人企画局地域共生部（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA）
 TEL：0748-46-8100 FAX：0748-46-8228 MAIL：kikaku@glow.or.jp 担当：藤田

本展のみどころ

■ NO-MAの収蔵作品にふれて、NO-MAの魅力にふれる

2024年に開館20周年を迎えたNO-MAでは、「ボーダレス・アート」という言葉に思いを込めて、障害のある人たちによる造形表現や現代アートなど、様々な表現を分け隔てなく紹介してきました。収蔵作品においても、ボーダを設けることなく、障害のあるなしに関わらず、魅力ある3万点を超える作品を収蔵しています。

収蔵作品を紹介する「NO-MAコレクション」は本展で5回目となりますが、3期に分けて7か月という長期間にわたり展示するのは初めての試みです。古民家を改装したNO-MAの空間で、じっくりと鑑賞いただくことで、NO-MAが20年にわたり紡いできたものを感じることができます。近江八幡市の重要伝統的建造物群保存地区に佇む、築100年に迫る町屋を舞台にアートにふれる体験をお楽しみください。

■ 出展者

I期：岩崎 司、澤田真一、高橋重美、水谷伸郎、三橋精樹、宮間英次郎、吉川秀昭、吉澤 健、
 II期：イマム・スチャヒヨ、木本博俊、古久保憲満、ドウイ・プトロ、ノヴィアディ・アンカサプラ、
 山崎健一、レイナルディ・ハリム
 III期：今村花子、草薨陵太、佐々木卓也、武友義樹、橋脇健一、平田 猛、米田 文

<第I期>

岩崎 司 Iwasaki Tsukasa

1928-2006年 岩手県

岩崎さんは、55歳の時に病気で入院しました。63歳になってからベッドの上で絵をかきはじめ、78歳で亡くなるまでかきつづけました。たくさんかいたので、ベッドのまわりは絵でいっぱいになりました。ただ、病院で手に入る紙は薄いので、しばらくすると絵が丸まってしまう。そのため、広告のチラシを巻いて作った筒状のものを、絵の裏やまわりにはりつけました。若い時から短歌をつくるのが好きだったので、絵に言葉を組み合わせたり、これまでに読んだ宗教や文学の本から思いついたイメージをかくこともありました。

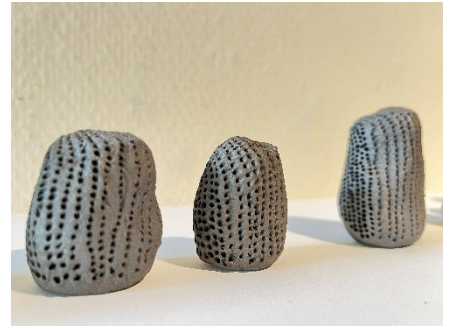


② 無題 制作年不詳

吉川秀昭 Yoshikawa Hideaki

1970 年生まれ 滋賀県在住

陶土にいくつもの点が打たれ、ブツブツした立体造形が生まれます。吉川さんは、自らカットした陶土に「目、目、鼻、口」と唱えながら細い棒で点を打つという制作を行います。無数の点の正体は、数えきれないほどの顔です。

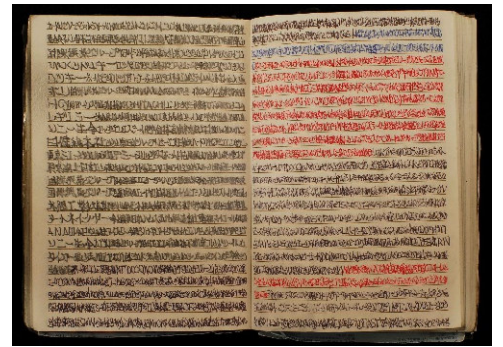


③ 「目、目、鼻、口」 1995-2005 年
「もの、なにもの」(2024 年)展示風景

吉澤健 Yoshizawa Takeshi

1966 年生まれ 東京都在住

吉澤さんは、休日になると街に出かけ、街中で見かけた企業名や看板をノートに記録して歩いています。ノートは他にも、外出した行程や使用したお金などを記すメモなど、端から端までアラビア文字のような文字群で埋め尽くされています。以前は、ノートの表紙と裏表紙を雑誌や新聞・広告などの切り抜きで幾重にもコラージュし、セロハンテープで封印していましたが、現在の作品はコラージュされることもなく、封印もされていません。学校を卒業後、企業に 22 年勤務し、その後に入った作業所で 16 年勤務しており、仕事も制作も継続しています。



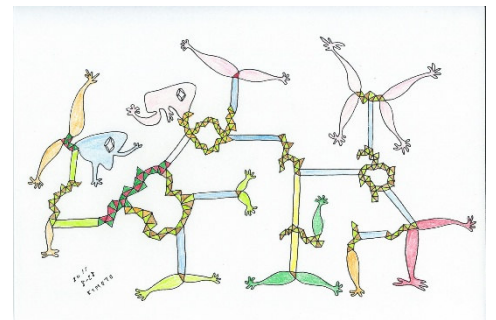
④ 無題 制作年不詳

<第Ⅱ期>

木本 博俊 Kimoto Hiroto

1949 年生まれ 愛知県在住

木本さんは、高校を卒業してから病気になり、病院で、ずっと絵をかいてきました。30 年以上、病院でくらす中で、1000 枚を超える絵をかきました。まっすぐな線や、まがった線、丸や三角形をつなげたり、ふやしながらかかれた絵は、ふしぎな生き物のようにもみえます。絵は、便せんに、ペンや色鉛筆、ボールペンなどを使ってかかれています。絵にはひとつひとつに番号がつけられ、いくつかの束にまとめて、ふくろに入れて大切に保管されていました。

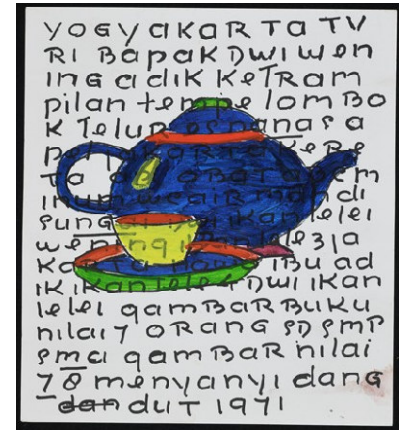


⑤ タイトル不詳 2011 年

ドゥイ・プトロ Dwi Putro

1963年生まれ インドネシア ジョグジャカルタ在住

ドゥイさんは、インドネシアで、妹の家に一緒に住み、絵をかいています。庭に大きな壁をたて、絵をかくための布をはり、絵具を使ってかきます。紙にクレヨン、ペン、鉛筆などでかくこともあります。はじめは 家の壁に「ワヤン」という、インドネシアの影絵の人形劇にでてくる人形をかきました。それはドゥイさんが小さいころに、家の近くでひらかれたワヤンをみるができなかったことがきっかけだったそうです。それから、ワヤンの絵のほかにも、動物や植物などの絵をかきつづけ、今では数えきれないほどの量になっています。



⑥ タイトル不詳 2015年

レイナルディ・ハリム Raynaldy Halim

1997年生まれ インドネシア在住

アートセラピーとして制作をはじめ、2017年から集中的に抽象画を描き始めました。国内外のさまざまな活動や展覧会に参加し、2018年には、インドネシア記録博物館（MUSEUM REKOR-DUNIA INDONESIA）から、年間で1,000点以上の作品を描いた特別な能力を持つ子どもとして、MURI記録を授与されています。



⑦ 「AWAN BERSIH」 2018年

<第Ⅲ期>

草薙陵太 Kusanagi Ryota

1988年生まれ 岩手県在住

草薙さんの作品は遠くから見ると濃淡や色に違いによってインパクトを与えます。近づいてみると、絵は勢いよく飛び散ったかのような、細かい色の粒で成り立っていることがわかります。この絵は、親指と人差し指の付け根に水彩ペンをはさみ、上下にスイングをしながら一定のテンポで描かれています。この繰り返しやリズム感が本人にとっては心地よいのかもしれませんが、作品には具体的なモチーフが描かれているわけではありませんが、色合いやタッチをじっくり眺めていると、本人の無意識のなかの心象風景のようにも見えてきます。



⑧ 無題 2016年頃

佐々木卓也 Sasaki Takuya

1975年生まれ 東京都在住

佐々木さんは、幼少期より、絵を描いたり粘土細工をすることを好み、動物や人物をモチーフとして制作しています。粘土で作られた女性のシリーズは、折り曲げた左手でまっすぐ伸ばした右ひじの内側を触れる、または右ひじの内側に唇を当てるといった独特な姿勢をしています。母によると、「小さい頃、自分もよくそうしていたから彼にとってその部分（右ひじの内側）は心の安らぐ大切な場所」であるそうで、作品にも反映されています。



⑨ 「まりちゃん(TVに出ていた人)」 2007年
「もの、なにもの」(2024年)展示風景

米田文 Yoneda Bun

1975- 石川県在住

動物や植物などを題材に、思わず手に取って見入ってしまうようなユニークな作風の「うずまきさん」は、1998年頃から約3年という短い期間だけ作り続けた作品群です。作品を構成する小さな「うず」は、まるで無限が増えてくようで、かつ引っ付きあい、一つの大きな形を成しています。



⑩ 「うずまきさん」 2001年

■障害などを理由に、NO-MAに行くか迷っている方へ

「さわって楽しめるものはある?」「これが苦手なんだけど大丈夫?」「静かにしなくてもいい?」など、あなたやあなたの周りの方が気になっていることや、必要なサポートを教えてください。合理的配慮の観点から、できる限りの情報提供やスタッフによる対応を行います。なお、本展では、見えにくい方や聞こえにくい方、字を読むのが苦手な方に向けての「情報保障」や、さわって楽しむ展示物を準備しています。



詳しくはQRコードから
ご確認ください

広報用画像申込書

社会福祉法人グロー 法人企画局地域共生部
(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA) 展覧会担当宛
FAX : 0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

- (1) キャプションは、作家名、作品名、制作年を表記ください。
- (2) 作品のトリミング、文字載せはお控えください。
- (3) 本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正、掲載誌（紙）、DVD、CD等をお送りください。

媒体名：『

』

種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー
ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日：

御社名：

ご担当者名：

Eメールアドレス：

@

(〒 -)

ご住所：

お電話番号：

FAX：

<input type="checkbox"/>	①NO-MAコレクション Part 5「NO-MA ヒストリー」	ちらし画像
<input type="checkbox"/>	②岩崎 司 無題	制作年不詳
<input type="checkbox"/>	③吉川秀昭 (展示風景)「目、目、鼻、口」	1995-2005年
<input type="checkbox"/>	④吉澤 健 無題	制作年不詳
<input type="checkbox"/>	⑤木本 博俊 タイトル不詳	2011年
<input type="checkbox"/>	⑥ドゥイ・プトロ タイトル不詳	2015年
<input type="checkbox"/>	⑦レイナルディ・ハリム 「AWAN BERSIH」	2018年
<input type="checkbox"/>	⑧草薨 陵太 無題	2016年頃
<input type="checkbox"/>	⑨佐々木卓也 (展示風景)「まりちゃん (TVに出ていた人)」	2007年
<input type="checkbox"/>	⑩米田 文 「うずまきさん」	2001年

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人企画局地域共生部 (ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)
TEL : 0748-46-8100 FAX : 0748-46-8228 MAIL : kikaku@glow.or.jp 担当：藤田